

spScan 2023.1

バージョンアップニュース

機能改良／仕様変更

対応 OS の変更

- 対応 OS は Windows 10 Pro (64bit)、Windows 11 Pro (64bit)、
Windows Server 2016 Standard (64bit)、Windows Server 2012 R2 Standard (64bit)
※Windows 11 Pro (64bit) : 新規対応
※Windows 8.1 Pro (64bit) : 対応終了

[編集]-[曲面フェーズに進む]

- ポリゴンフェーズから曲面フェーズに移動する機能を追加しました。

[編集]-[ポリゴンフェーズに戻る]

- [ポリゴンフェーズに戻る] のメニュー位置を変更しました。
旧 : [曲面]_[パッチ]_[ポリゴンフェーズに戻る]
新 : [編集]_[ポリゴンフェーズに戻る]

[表示]-[表示/非表示]-[ポリゴン表示/非表示]

- 表示/非表示の切り替えの高速化をしました。

[表示]-[表示/非表示]-[曲線表示/非表示]

- 表示/非表示の切り替えの高速化をしました。

[表示]-[表示/非表示]-[曲面表示/非表示]

- 表示/非表示の切り替えの高速化をしました。

[表示]-[表示/非表示]-[フリー曲線のみ表示]

- フリー曲線のみ表示する機能を追加しました。

[ポリゴン]- [間引き]

- 間引き処理時間の高速化をしました。

[曲線]-[シルエットライン作成]

- 作成時間の高速化をしました。

[曲線]-[シルエットライン作成(回転投影)]

- 選択したポリゴンのシルエットを平面上に回転投影できるようになりました。

[曲線]-[2D 曲線作成]

- UV 基準座標軸から寸法拘束を付けられるようになりました。

[曲線]-[曲線投影]

- 投影時に使用している元のフリー曲線を投影後にも残せるようになりました。

[曲面]-[パッチ]-[自動パッチ作成]

- パッチ曲面の制御点数指定に「少なめ」「最小」を追加しました。
- パッチ曲面のスミージング係数の変更をしました。

新：「弱い」（旧：標準）、新：「標準」（旧：強い）、新：「強い」（さらに強いスミージング設定を追加）

[曲面]-[パッチ]-[ポリゴン四辺化]

- ポリゴンのリメッシュ四辺化技術を適用して、パッチ分割を行うロジックを追加しました。

[曲面]-[パッチ]-[パッチ領域作成]

- 作成時間の高速化をしました。

[曲面]-[パッチ]-[パッチ曲面作成]

- パッチ曲面の制御点数指定に「少なめ」「最小」を追加しました。
- パッチ作成時のプログレスバーに予測時間を表示するようになりました。
- パッチ曲面のスミージング係数の変更をしました。

新：「弱い」（旧：標準）、新：「標準」（旧：強い）、新：「強い」（さらに強いスミージング設定を追加）

[曲面]-[複数基本面作成]

- 「方向をそろえる」を ON の状態で、作成されるプリミティブ形状がポリゴンから離れる場合、ポリゴンを参照に位置、傾きを修正できるようになりました。
- 平面要素自動抽出のロジックを修正しました。
- 複数基本面作成ダイアログの「全選択」のチェックボックスの位置を変更しました。

[曲面]-[角出し]

- 端部自動修正の選択条件ダイアログを削除しました。
- 選択無しで、端部自動修正を自動で処理できるようになりました。

[曲面]-[ぼかし角出し]

- 起動直後のぼかし箇所の自動検索時間の高速化をしました。

[曲面]-[押し出し面作成]

- 押し出し形状の端部が同一平面上にある場合、ソリッド化形状の作成ができるようになりました。
- 押し出し面作成後に押し出し要素として使用した元のフリー曲線を自動で削除できるようになりました。

[曲面]-[回転面作成]

- 自己交差している曲線群でも回転体の作成ができるようになりました。
自己交差している曲面にはエラーの注記ラベルを表示します。

[解析]-[spGauge Viewer Light に出力]

- 誤差カラーマップ情報を、spGauge Viewer Light 用のビューワーデータとして出力できるようになりました。

[デモ]-[解析]-[曲線端末方向チェック]

- 曲線の端部付近で曲線ベクトルが急激に反転変形をしている不具合曲線をチェックすることができるようになりました。

[デモ]-[解析]-[曲線フェアリングチェック]

- 複数の曲線に対し同時に制御点編集などによる変形ができるようになりました。
[曲線]-[制御点編集]を複数の曲線で同時に実施するイメージです。
- 複数の曲線に交差する曲線の頂点を移動すると交差している曲線も同時に変形ができるようになりました。

[デモ]-[ツール]-[曲線固定]

- 変形したくない曲線群に固定属性をつけることができるようになりました。
[曲線編集]などの曲線を変形する機能では、固定した曲線の選択ができなくなります。

[デモ]-[曲面編集]-[内挿面に変換]

- 3辺構成のトリム曲面を分割し、3面の内挿面として作成することができるようになりました。

[デモ]-[曲面フェアリング (円環ハイライト)]

- 円環光源を曲面に投影し、曲面の状態を確認できるようになりました。滑らかな曲面は、投影した曲線も滑らかな曲線形状で表現できます。
- 振動や異形のある投影曲線範囲を指示することにより、指示された範囲の投影曲線がより滑らかになるように曲面を変形させることができるようになりました。

[デモ]-[曲面編集]-[平面カット]

- カット平面の法線（表裏）方向の反転機能を追加しました。
- カット平面の方向を角度で指定できるようになりました。

カラーバー

- カラーバーのデフォルトのサイズを大きくしました。
- カラーバーのサイズ「高さ」と「幅」を変更できるようになりました。
- カラーバーに誤差ヒストグラムを表示できるようになりました。

不具合修正

[ファイル]-[名前を付けて保存]

- パッチ曲面作成などで大量の曲面を作成した場合、scands ファイル の保存に失敗する不具合を修正しました。

[ファイル]-[上書き保存]

- パッチ曲面作成などで大量の曲面を作成した場合、scands ファイル の上書き保存に失敗する不具合を修正しました。

[ファイル]-[インポート]-[CAD]-[IGES]

- CAD インポート時に曲線の共有が出来ない不具合を修正しました。

[曲線]-[2D 曲線作成]

- 拘束条件を付けた後、Ctrl + z を 2 回実行しないと元の状態に戻せない不具合を修正しました。
- 拘束条件を付加する際に、メニューが終了する不具合を修正しました。

[曲面]-[ぼかし角出し]

- ぼかし対象が多い場合、起動直後にダイアログが表示されるまで時間がかかる不具合を修正しました。

[曲面]-[回転面作成]

- 自己交差箇所が誤判定される不具合を修正しました。
- 作成した回転面形状の平面要素が、[解析]-[形状情報] で平面と認識されない場合がある不具合を修正しました。
- 「曲線が連続していません。」のメッセージボックスの後に「OK」をクリックすると例外が発生する不具合を修正しました。

[デモ]-[曲面作成]-[スイープ面作成]

- 「平行性維持」で作成すると断面線を通らない曲面が作成されることがある不具合を修正しました。

[デモ]-[自動ポリゴンエッジ曲線作成]

- 実行すると例外になる場合がある不具合を修正しました。

[デモ]-[複数曲面フィット]

- ポリゴン端部付近の曲面が消える不具合を修正しました。

R 止まり線が連続する 2 組の曲線群になるように選択ください

- 「R 止まり線が連続する 2 組の曲線群になるように選択ください。」のメッセージが出た場合、[OK]をクリック後、選択状態を正しい状態に修正しても、「例外が発生しました。処理を中断して、実行前の状態に戻します。」のエラーになり、コマンドが強制的に終了される不具合を修正しました。ポリゴン端部付近の曲面が消える不具合を修正しました。

ポリゴン選択

- ブラシ選択の際に「可視選択」「表面選択」の選択フィルターが適用できなくなる不具合を修正しました。

カラーバー

- ウィンドウサイズを変更した時、カラーバー表示が部分的に見えなくなる不具合を修正しました。

選択

- 曲線または曲面の選択が必要な機能を実行時、多くの要素を同時選択した場合のハイライト表示に時間がかかる不具合を修正しました。

お問い合わせ

その他の機能改良・詳細は、下記総販売代理店、またはアルモニコスへお問い合わせください。

総販売代理店：東京貿易テクノシステム株式会社 TEL. 03-6841-8604

開発元：株式会社アルモニコス TEL. 053-459-1000

- 本製品および本書の著作権は、株式会社アルモニコスにあります。
- 本製品および本書は、本製品のソフトウェアライセンス契約に基づき、登録者の管理下でのみ使用することができます。
- 本製品および本書の一部または全部を、株式会社アルモニコスの承諾無く、無断で複写、複製、転載することを禁じます。
- 本製品の仕様および本書に記載された内容は予告なく変更することがあります。
- 本製品および本書に記載されている会社名、製品名などは、各社の商標または登録商標です。
- 輸出関連法規の遵守: 本製品および関連する情報、技術、資料、またはこれらを使用して作成される物資または役務を、以下の用途に使用しないでください。
 1. 日本国内から、核兵器、生物兵器、化学兵器及びミサイル（以下「大量破壊兵器」という。）の開発、製造、使用若しくは貯蔵（以下「開発等」という。）又はその他の軍事用途を目的とする者へ輸出（外国への持ち出し、商社等を通じた間接輸出、国内における非居住者への開示を含む。）すること。
 2. 日本国外において、大量破壊兵器の開発等又はその他の軍事用途に自ら用いること、又はそのような用途を目的とする者へ再提供すること。